

平成30年度 日本総合医療専門学校自己点検・評価

自己点検・評価			適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
大項目	中項目	小項目(評価の視点)	4	3	2	1
1.教育理念・目的・育成人材像	1.理念・目標・育成人材像	1.理念・目標・育成人材像は定められているか	○			
		2.育成人材像は専門分野に関する業界等の人材ニーズに適合しているか	○			
		3.社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	○			

自己点検・評価			適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
大項目	中項目	小項目(評価の視点)	4	3	2	1
2.学校運営	1.運営方針・事業計画	1.理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか	○			
		2.学校運営組織を適切に整備しているか	○			
	2.運営組織	3.人事・給与に関する制度を整備しているか	○			
		3.特徴ある取組	4.学校運営について、特色ある取組を行っているか		○	

自己点検・評価			適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
大項目	中項目	小項目(評価の視点)	4	3	2	1
3.教育活動	1.目標の設定	1.理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	○			
		2.修業年限3年で柔道整復師国家試験を合格できるように目標設定されているか	○			
		3.業界等人材ニーズに対応した特色ある達成目標を設定しているか(別記例示参照)		○		
	2.教育方針・評価等	1.柔道整復師国家試験受験に必要な教育課程を編成しているか	○			
		2.教育課程編成委員会を設置し、外部の意見を教育課程に反映しているか		○		
		3.キャリア教育を実施しているか		○		
		4.柔道整復師としての社会的責任を果たすうえで卒業後も継続した学習が必須であることを認識するための教育を行っているか(別記例示参照)		○		
		5.授業評価を実施しているか		○		
		6.教育方法について、特色ある取組を行っているか		○		
	3.成績方法・単位認定等	1.成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	○			
		2.学修成果発表会等で達成度を把握しているか		○		
	4.免許・資格取得の指導体制	1.柔道整復師国家試験及び認定実技審査のための指導体制はあるか	○			
2.その他の資格取得について、特色ある取組を行っているか		○				
5.教員・教員組織		1.資格・要件を備えた教員を確保しているか	○			
	2.企業等と連携し、教員の資質向上への取組を行っているか	○				
	3.教員組織について、特色ある取組を行っているか	○				

自己点検・評価			適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1				
大項目	中項目	小項目(評価の視点)	4	3	2	1	
4.学修成果	1.免許・資格の取得率	1.免許・資格取得率の向上が図られているか	○				
		2.認定実技審査の合格実績は高水準にあるか	○				
		3.柔道整復師国家試験の合格率は高い水準にあるか	○				
	2.就職率	1.就職率の向上が図られているか	○				
		2.就職の実績は高い水準にあるか	○				
	3.卒業生社会的評価	1.社会的評価を受けた卒業生の活躍実績があるか	○				
		4.特色ある取組	2.学修成果の把握について、特色ある取組を行っているか		○		

自己点検・評価			適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
大項目	中項目	小項目(評価の視点)	4	3	2	1
5.学生支援	1.学生生活	1.学生の社会的側面に対する支援体制を整備しているか		○		
		2.学生の健康管理を行う体制を整備しているか	○			
		3.学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか		○		
		4.課外活動に対する支援体制を整備しているか		○		
	2.学生相談	1.学生相談に関する体制を整備しているか	○			
	3.中途退学者への対応	1.退学率の低減が図られているか		○		
		2.退学率は低い水準にあるか		○		
	4.保護者との連携	1.保護者との連携体制を構築しているか	○			
	5.卒業生・社会人	1.卒業生への支援体制を整備しているか		○		
		2.産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか			○	
		3.社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか		○		
	6.特色ある取組	1.学生支援について、特色ある取組を行っているか		○		

自己点検・評価			適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
大項目	中項目	小項目(評価の視点)	4	3	2	1
6.教育環境	1.施設・設備等	1.施設・設備は専修学校設置基準及び柔道整復師養成施設指定規則に定める基準に基づき適切に整備されているか	○			
	2.実習・演習・インターンシップ等	1.企業、等と連携して実習・演習・インターンシップ等の実施体制を整備しているか		○		
	3.防災・安全管理	1.防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか		○		
		2.学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか		○		
	4.特色ある取組	1.教育環境の整備について、特色ある取組を行っているか		○		

自己点検・評価			適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
大項目	中項目	小項目(評価の視点)	4	3	2	1
7.学生の募集と受入れ	1.学生募集活動	1.学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか		○		
	2.入学選考	1.入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	○			
		2.入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	○			
	3.学納金	1.経費内容に対応し、学納金を算定しているか		○		
2.入学辞退者に対し授業料等について適切な取り扱いを行っているか		○				
	4.特色ある取組	1.学生の募集と受入れについて、特色ある取組を行っているか	○			

自己点検・評価			適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
大項目	中項目	小項目(評価の視点)	4	3	2	1
8.財務	1.財務基盤	1.学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか		○		
		2.学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	○			
	2.予算・収支計画	1.予算及び執行計画に基づき適正に執行管理を行っているか	○			
	3.監査・財務情報の公開	1.私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、財務情報を公開しているか				○
4.特色ある取組		1.財務運営について、特色ある取組を行っているか		○		

自己点検・評価			適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
大項目	中項目	小項目(評価の視点)	4	3	2	1
9.内部質保証	1.関係法令・設置基準等の遵守	1.法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	○			
		2.職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか		○		
	2.学校評価	1.自己点検・評価の実施体制を整備し、評価を行い、結果を公表しているか			○	
		2.学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行い、結果を公表しているか				○
3.教育情報の公開	3.学校評価結果を改善に繋げるシステムを確立しているか			○		
	4.学校評価に基づく改善活動は成果を上げているか		○			
		1.教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか		○		

自己点検・評価			適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
大項目	中項目	小項目(評価の視点)	4	3	2	1
10.社会貢献・地域貢献	1.社会貢献・地域貢献	学校教育資源を活用した社会貢献、地域貢献等を行っているか	○			
	2.ボランティア活動	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか			○	
	3.特色ある取組	社会貢献・地域貢献について、特色ある取組を行っているか	○			

自己点検・評価			適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1				
大項目	中項目	小項目(評価の視点)	4	3	2	1	
3-1-3.教育活動(別記例示)	1.教育目標として設定した専門技術	1. 柔道整復術:骨折の整復技術・脱臼の整復技術・軟部組織損傷の初期措置法などの修得	○				
		2. 被覆包帯及び固定包帯術:巻軸包帯での被覆包帯が緩まない包帯・腫脹に対応できる包帯の技術習得・固定包帯は骨折等の整復位をいかに保持するかの研究および技術の習得	○				
		3. テーピング技術:患部の運動制限・疼痛緩和・血行促進などの研究および技術の習得	○				
		4. 後療法:手技療法 軽擦法・強擦法・叩打法などを用いて自然治癒力を活性化させ損傷の早期回復を図る技術の習得。運動療法 全身運動療法と局所運動療法を併用し機能回復と増進を図る技術の習得。物理療法 電気・光・温熱・冷却・音波などの物理的エネルギーを使用して、生体機能の正常化および恒常性維持機能を高める研究および技術の習得。	○				
		5. 鑑別技術(ポディナビゲーション体表解剖を含む):外見上の症状では判断できない症状を各種検査方法で鑑別する技術の習得。臨床実習にて治療方針を決め、治療し、評価する技術の習得。	○				
		6. 医療面談:信頼関係の構築の仕方、主訴、現病歴の確認など	○				
		7. リスク管理:フォルクマン抱縮などの後遺症へのリスク管理。整復・固定・後療法・自己管理などに対する指導管理	○				
	2.生涯学習の意欲醸成に関する 評価事項	1. 生涯学習の重要性を現場で活躍する柔道整復師などから聞く機会を設けているか			○		
		2. 卒後研修等の生涯学習プログラムに在学中から参加する機会を提供しているか			○		
		3. 「卒後臨床研修制度」をはじめとする生涯学習に対する意欲を醸成するための教育を体系的に行うよう努めているか			○		

平成31年5月15日実施